

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法	授業評価 回答率 科目GPA
G232001 日本の造形B	日本の現代的な造形行為への関心と理解を深め、受講生が現代社会の新しいニーズに応える造形行為に関して自立的に考察できることを目指す。	大学院1年生の選択科目である本授業の内容・方法は、人と人との関係に係る社会造形として成立してきた日本の伝統的なコトを対象に、それら社会造形の作法、礼儀、しきたり、行事、担い手等への関心を惹起し、意味や意義を再発見すべき造形の発見・発掘から、それらが生まれた社会背景や生産技術、時代評価等のサーベイを通して、社会造形に対する自らの造形評価をプレゼンテーションやディスカッションによって伝達・交換・発展できる資質を修得するものである。また、ほぼ毎回、授業内容に関する課題を作成することで、理解の定着と自らの専門領域で考察する姿勢を身に付けるように配慮した。そのため、目標に対する一定の教育効果があったと考えられる。	2021年度秋学期に授業評価アンケートの高評価により表彰をいただいた科目であり、今年度も満点(5.0)の科目に次、2位の評価であった。今後も、今年度の授業方法を踏襲し、さらに、討論等、考察力を高める工夫を図りたい。	授業評4.771 回答率41.2% 科目GPA3.35
G232003 デザイン学特別講義	視覚伝達デザインを中心としたデザイン事例をもとに、デザインに関する総合的な知識と技術を学び、現代社会に存在する問題を解決するための企画・調査・設計・監理のための方策を計画することができるようになる。	昨年のコンテンツをもとに新たなトピックも盛り込むようにした。オムニバス授業については、担当者間の連絡があまりない状況なので、引き続き改善していきたいと考えている。 題材などで微修正がある場合、映像ソフトで編集書き出すと、最初に書き出したものよりかなりファイル容量が増加してしまう。デジタルデザイン、AIなど年々内容は変化していくので、この問題の解決が必要である。	毎回授業レスポンスを求めている。オンデマンド配信では動画とPDFを使っている。	授業評価4.57 回答率44.0% 科目GPA2.13
G232004 技術・産業論	経営戦略論の基礎理論を理解できる技術・産業に適合した経営戦略における課題を理解できる 経営戦略のフレームを事例に適用して分析できる	事前に授業時各回の担当者を決めて事前に課題を与え、プレゼンしたうえで、全員でディスカッションを行い、最後にこれにコメントするかたちで毎回テーマの理解を深めた。 短期間にて一定の成果をあげたと考えている。	今後は、より新しい事例をとりあげることで、履修者の興味を引き出し、学習効果をよりあげていきたいと考える。	授業評価5.00 回収率100% 科目GPA0.02
GA23203 都市設計論	1.都市に関する基礎的な歴史、必要性、目標、手法、法制度、課題について把握する。 2.様々な時代や地域における都心のあり方に関心をもち、都市の歴史や、都市形態の変容などについて理解する。 3.現代の都市を視察し、問題点を発見でき、その解決案を提案できる。 教育効果	資料内容が見た目でも、よりわかりやすくなるように資料を作り直した。 また、写真や図面、映像などを取り入れ、学生が建築に興味を持つように授業内容を工夫した。 学生も授業を通じて建築とは何かを学ぼうとし、真剣に取り組んでいる様子が伝わってきた。	特に授業の進め方に問題はないようであった。 今後は、与えるだけの授業にならないように、適宜コミュニケーションも取りながら、適切な意見や質疑をしながら、学生自分自身で成長を実感させられるよう工夫したい。	授業評価5.00 回収率50.0% 科目GPA4.00
GA23206 材料設計論	建築材料設計に求められる内容を理解する。具体的には無垢材、木質材料、石材、コンクリート、ガラス、金属、プラスチック、接着剤・塗料、焼成材料、エコ材料などは、質のいい建築を設計するために、建築材料の評価をし、特性を理解しそれぞれの材料を組み合わせしていくかを学び今後の展開となる研究に結び付ける。	各材料の表現方法を見つけ出し、学生自らが発表をする形態をとり、始めは慣れない様子だったが、学生それぞれが自分が感じる素材の意味を見つけ出して表現できていたことがとてもよかった。	来年度も同じように学生が自ら考えることができる授業方法を行い、それぞれの成長を感じていただけるような取り組みにしたいと思う。	授業評価5.0 回答率33.3% 科目GPA4.00
GA23210 建築学ゼミナールB	建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をとおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	学生は個別の課題について、それぞれ積極的な取り組みを行うことができた。	本年度の反省点を踏まえて、適宜必要な指導を行うようにしたい。	授業評価 履修者人数の関係上、非公表
GA23215 建築学ゼミナールB	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	優秀な学生であったため、所報を書くことを共に挑戦し、分析方法なども伝えることができた。学生も充実した時間が過ごせたこと、成果が出たことの喜びを伝えていただけたことがとてもよかった。	来年度も学生の能力に合わせ、一緒に挑戦できる研究をしていきたいと思う。	授業評価 履修者人数の関係上、非公表
GA23217 建築学ゼミナールB 集中	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	個別指導をするなかで、文献や資料を収集し、そのまとめや分析の課題を課し、アウトプットを報告することで研究の蓄積が図れたと考える。	少人数であるため学生の能力や個性に合わせ、主体的に進められるように課題の与えてサポートしていく。	授業評価 履修者人数の関係上、非公表

GA23218 建築学ゼミナールB	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	授業の性格上、個別指導となった。全体的には、テーマ設定に時間をかけるとともに、それをレポート化するとともに、問題発見・解決方法の提案をディスカッション形式で行った。	一定の研究成果をあげるべく指導ができたと思われる。	授業評価 履修者人数の関係上、非公表
GA23220 建築学ゼミナールE	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	構造解析が中心の研究のため、解析結果についての討論とアドバイスを実施し、最終的に良い修士研究になったと考えられる。	実験結果の取りまとめ、修士研究論文の作成等を経て、一定の研究成果をあげるような指導ができたと思われる。	授業評価 ※履修者人数の関係上、非公表
GA23221 建築学ゼミナールE	建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	学生は個別の課題について、それぞれ積極的な取り組みを行うことができた。	本年度の反省点を踏まえて、適宜必要な指導を行うようにしたい。	授業評価 ※履修者人数の関係上、非公表
GA23229 建築学ゼミナールE 集中	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	MIから継続してきた文献・資料分析の蓄積に基づき、研究成果として一定水準の修士論文を完成することができた。	修士論文の作成においてスケジュール管理を厳密に行い、後半に負担が集中しないように注意したい。	授業評価 ※履修者人数の関係上、非公表
GA23232 建築学ゼミナールF	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	授業の性格上、個別指導となる。構造解析が中心の研究のため、解析結果についての討論とアドバイスを実施し、最終的に良い修士研究になったと考えられる。	実験結果の取りまとめ、修士研究論文の作成等を経て、一定の研究成果をあげるような指導ができたと思われる。	授業評価 ※履修者人数の関係上、非公表
GA23233 建築学ゼミナールF	建築・都市設計、環境設計、インテリア設計、構造設計の各研究領域において自ら研究テーマを設定し、問題発見・課題設定・資料収集・調査分析から研究成果としての修士論文もしくは修士設計のとりまとめ、そして発表までの一連の研究作業をおして、社会造形としての建築を提案する実践力を修得することを目的としています。 研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	学生は個別の課題について、それぞれ積極的な取り組みを行うことができた。	本年度の反省点を踏まえて、適宜必要な指導を行うようにしたい。	授業評価 ※履修者人数の関係上、非公表
GA23241 建築学ゼミナールF 集中	研究テーマの設定、予備的調査と研究計画の作成に始まり、情報収集と分析、解釈、成果物のとりまとめ、発表準備と、順次、計画的に進め、主体的、行動的、実践的に独自の研究開発や設計提案をすることができる。	MIから継続してきた文献・資料分析の蓄積に基づき、研究成果として一定水準の修士論文を完成することができた。	修士論文の作成においてスケジュール管理を厳密に行い、後半に負担が集中しないように注意したい。	授業評価 ※履修者人数の関係上、非公表
GD23201 デザイン演習B	領域の実践的デザイン能力の向上を図るため、研究を実現するために必要となるプロセス及び検討手法と実施スキルを獲得することが目標である。	学部からの学生は造形力が不足しており、留学生との格差がみられた。	大学院として13名の演習と人数が多く、材料や機材が不足したため、今後は改善したい。	授業評4.750 回答率30.8% 科目GPA3.23
GD23202 デザイン演習D	研究成果を効果的に発表・伝達するために必要となるスキルを獲得することを目標とする。	履修者は1名のみ。プレゼン方法の演習を教科の目標としているが、研究の進捗も確認した。	論文作成する学生なので、発表スキルについて議論する点はそれほどなかったが、論文の内容が資格伝達に関することだったので（しかもサブカルチャー）、かなり突っ込んだ議論を重ねることができた。	授業評価5.0 回答率100% 科目GPA4.0
GD23203 情報デザイン論	基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自持の獲得を目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。	情報の概念や価値観が研究分野によって違っているので、なるべく研究内容に沿った情報デザインの問題を扱うようにした。言語の壁が大きいと感じている。さすがに日本人学生に出題意図は伝えやすく、各自の情報デザインレポートは、昨年と比べて興味深いものが多かった。	留学生と日本人学生が半々で、習熟しているスキルや興味関心分野にもかなり違いがあった。両社が交流できる湯授業内容を考えたが、なかなかうまくいかなかった。	授業評価45.5 回答率44.4% 科目GPA2.78
GD23204 空間デザイン論 教職選択	人が認知する空間を分析的に把握することで、より美的な空間を演習できる能力の向上が目標です。 空間を社会学・心理学・行動科学・認知学などの視点で捉えデザイン分野におけるあり方を追究します。	多様な領域の学生14名が参加し、対面で実施。双方で意見交換を行いながら講義を進め、日本の住まい方と学生の母国の住まい方を比較する課題に変更して、興味関心を持てるよう配慮した。プロセスに応じて課題を与え、プレゼンテーションを実施することで、授業内容の理解を深め、能動的な学びにつながるよう工夫した。	専門的な内容に特化しすぎると、他分野の学生が興味を持てなくなる可能性があるが、一方で基礎的な内容では製品空間領域の学生が物足りなさを感じることもある。そのため、授業内容には工夫が必要。わかりやすく、かつ興味を引く内容になるよう検討する。	授業評価6.64 回答率35.7% 科目GPA2.79

GD23205 IoTデザイン論	I o Tに関する知識と人との関わり方を理解し、デザイン開発に適用できる基本的知識と能力を付けることが目標です。I o Tの事例からデザイン開発における可能性を理解し活用するための基礎知識の修得を目的としています。	I o Tに関する知識と人との関わり方に対して、特に人との関わり方についてのメディア事例や関連研究を収集し、調査した後、個別の応用案を考案することができた。ただし学生間の議論については不十分であった。	学生間の議論が活性化するように、ファシリテーション役としての振る舞いを工夫する。	授業評価4.2 回答率33.3% 科目GPA2.17
GD23206 デザイン学ゼミナール B集中	領域の実践的デザイン能力の向上を図るため、研究を実現するために必要となるプロセス及び検討手法と実施スキルを獲得することが目標である。研究コンセプトを具現化するための検討手法の修得において、デザイン分野全体を視野に入れた実践的なデザイン能力の向上を図ることを目的としている。	学部で習得した内容と重複せずにさらに学ぶべき内容の授業であり、その目的は達成されたと考える。	留学生は、専門知識・技術の前に日本語の能力向上が不可欠である。課題違反を防ぐために板書等を工夫する。	授業評価 ※履修者人数 の関係上、非 公表
GD23208 デザイン学ゼミナール B	基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自持の獲得を目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。	履修者は2名。1名は日本の大学で学んできたもので、日本語能力が高く、もう1名が頼ってしまうことが多くなった。1名はTouchDesignerというリアルタイム映像処理を研究していて刺激的であったが独自の表現が見つけられていない。履修態度は良好なので、早く方向性をみつめていきたい。	集中講義であるが、週1回の対面授業を行うようにして指導した。秋学期はZoomによる遠隔授業で行った。2名が別々に報告するが、時々別の学生にも意見を述べさせるようにした。	授業評価 ※履修者人数 の関係上、非 公表
GD23210 デザイン学ゼミナール B	達成目標 基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自持の獲得を目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。 目的 専攻領域における研究・産業動向の把握に基づく研究テーマの設定と研究計画の策定を行い、その成果を研究計画書にまとめて十分に理解することを目的とします。	学部ではなく院生なので自主性に任せたのだが、研究の進行状況は良くなかった。目標と期限を明確にして研究の進行をコントロールしてあげる必要がありそうだ。	陰性だからと言って自主性に任せるのではなく、教育管理をしようと思う。	授業評価 ※履修者人数 の関係上、非 公表
GD23213 デザイン学ゼミナール B 集中	学生本人の研究内容とその進捗に合わせて様々なアドバイスをしていく。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことをしている。	特にありません。	授業評価 ※履修者人数 の関係上、非 公表
GD23214 デザイン学ゼミナール B 集中	基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自持の獲得を目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。 専攻領域における研究・産業動向の把握に基づく研究テーマの設定と研究計画の策定を行い、その成果を研究計画書にまとめて十分に理解することを目的とします。	受講生2名（留学生）対面に実施する。毎回の授業で進捗状況を報告させる。実制作に入るとこまめな対応が求められるため、授業時間外にはSNSで対応する。	少人数であるため、留学生の能力や個性に合わせて対応する。学生が主体的に進められるよう、サポートする。また授業アンケートに答えるよう促す。	授業評価 ※履修者人数 の関係上、非 公表
GD23217 デザイン学ゼミナール B	基礎的作業の進め方を会得し、研究テーマに関する刺激と養分を取り入れ、自らの研究を深める意欲と自持の獲得を目標とします。また、研究のゴールへ向けてのプロセスを研究計画書としてまとめます。 専攻領域における研究・産業動向の把握に基づく研究テーマの設定と研究計画の策定を行い、その成果を研究計画書にまとめて十分に理解することを目的とします。	毎回の進捗報告にて、授業時間外の調査や学びの主体性が乏しい状況に見える。問題点を明確にする研究活動に対する客観的な視点の指導が不足していた。	授業時間外の研究活動についての過程と成果、問題点、課題を可視化していく。	授業評価 ※履修者人数 の関係上、非 公表
GD23220 デザイン学ゼミナール E	これまでの一連の研究成果と社会との関連を検討し、成果の補完を行い大学院研究として相応しい内容と体裁として完成させることを目標とする。	デザイン学ゼミナールFと連携して授業を行った。履修者の研究進行はほぼ予定通りに進行し、後半のプレゼンテーション準備に十分な時間をかけることができた。	履修者は1名で授業評価アンケートの回答を得ることができなかった。発表直前までZoomによる遠隔対面方式で授業を行った。履修者は必修科目をM2春学期までに取得しており、ほぼすべての時間を終了研究に使うことができた。発表までに滞りなく制作ができるよう、学部学生とプリンタ使用が重ならないよう時間調整した。	授業評価 ※履修者人数 の関係上、非 公表
GD23225 デザイン学ゼミナール E 集中	学生本人の研究内容とその進捗に合わせて様々なアドバイスをしていく。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことをしている。	特にありません。	授業評価 ※履修者人数 の関係上、非 公表
GD23226 デザイン学ゼミナール E 集中	これまでの一連の研究成果と社会との関連を検討し、成果の補完を行い、修士研究に相応しい内容と体裁として完成させることを目標とします。 研究テーマの成果に向けての整理作業と成果が社会に及ぼす効果を検討しながら、研究成果を最終研究報告書としてまとめることを目的とします。	受講生2名（留学生）対面に実施する。学生は、毎回の授業で必ず進捗状況を報告させる。締め切りが近くなると、こまめな対応が求められるため、授業時間外にはSNSで対応する。	少人数であるため、留学生の能力や個性に合わせて対応する。学生が主体的に進められるよう、サポートしていく。	授業評価 ※履修者人数 の関係上、非 公表
GD23230 デザイン学ゼミナール E	これまでの一連の研究成果と社会との関連を検討し、成果の補完を行い、修士研究に相応しい内容と体裁として完成させることを目標とします。 研究テーマの成果に向けての整理作業と成果が社会に及ぼす効果を検討しながら、研究成果を最終研究報告書としてまとめることを目的とします。	制作物の検証と完成度が十分ではなく、やり直しを繰り返すこととなった。十分な制作時間が取れていない。	授業時間外の研究活動についての過程と成果を可視化していく。	授業評価 ※履修者人数 の関係上、非 公表

GD23232 デザイン学ゼミナール F	これまでの一連の研究成果と社会との関連を検討し、成果の補完を行い、修士研究に相応しい内容と体裁として完成させることを目標とします。	デザイン学ゼミナールEと連携して授業を行った。履修者の研究進行はほぼ予定通りに進行し、後半のプレゼンテーション準備に十分な時間をかけることができた。	履修者は1名で授業評価アンケートの回答を得ることができなかった。発表直前までZoomによる遠隔対面方式で授業を行った。デザイン学ゼミナールEと連携して授業を行ったが、Fではコンテンツの文章表現についてより時間を割いた。	授業評価 ※履修者人数 の関係上、非 公表
GD23237 デザイン学ゼミナール F 集中	学生本人の研究内容とその進度に合わせて様々なアドバイスをしていく。	特別良いこともないが悪い点もない、できるだけのことを行っている。	特にありません。	授業評価 ※履修者人数 の関係上、非 公表